

教育学部教育学科 初等教育コース 小学校一種

【教員養成の理念】

教育学部教育学科の教員養成の理念は、仏教精神に則り、慈しみの心をもって他者に接することのできる、子どもの「育ち」によりそう教育者・保育者を育成することにある。教育学部のディプロマ・ポリシーでは、子どもとのかかわりを通して人間関係構築能力を育成しコミュニケーション能力育成を図ること、また教育問題を中心とするさまざまな社会問題を積極的に考察することを通してよりよい社会を形成し、幅広く人文・社会科学の知識を修得することを通して、本学の特徴である宗教的情操をそなえた小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を育成し、生きることの喜びと他者を思いやる心をもった子どもを育てることを重視している。

第三代学長佐々木は「教育は常に宗教を俟つて真実の人格を作る」と述べたが、これは、学校や教室での直接的な宗教教育を意味するのではない。宗教的情操をそなえた教員の言葉や立ち居振る舞いは、自ずと生徒の心の成長に静かで深い影響を与える。大谷大学では、こうした教育のあり方を「こころを育てる教育」として大切にしてきた。「教育学部教育学科」では教育・心理学科の実績を踏まえ、〈初等教育コース〉と〈幼児教育コース〉を設け、教員養成の構想を実現する。

【学科として養成したい教員像】

小学校教員に必要な教職や教科に関する科目を履修するほかに、本学がめざす教員養成の理念を実現するために関連のある教職科目として教育学系科目や心理学系科目、人権系科目を配置する。

すなわち、①人権に関する関連科目を1年次より配置し、2年次後期の本学独自科目「仏教と教育」や3年次の「教育人間学」につなぎ、慈しみの心に基づく宗教的情操を培う。また、教育学系科目により、②2年次以降、学生が理数系に関心を示すように段階的にカリキュラムを構築して理数系教育の充実を図り、③特別支援教育に関する科目を1年次後期・2年次前期・3年次前期・4年次後期に配置し体系的な履修によりインクルーシブ教育システムに対応できるように配慮する。さらに心理学系科目により、④子どもの発達に対する理解を深め、子どもを理解する資質を鍛え、学校ボランティアや地域連携に関する参加型科目で他者と協働する力を育むことをめざしている。

これらの科目を履修することを通して、本学の目標である①優しくかつ頼りがいのある人間性豊かな教員、②時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育技術を有する資質の高い教員、③教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員が養成される。

・目標とする教員像

① 子どもの育ちに寄り添う、優しくかつ頼りがいがある人間性豊かな教員

仏教精神・宗教的情操の育成を通して、人間としての基礎力を育成し、どのような状況でも子どもと心から向き合える芯の強い小学校教員を養成する。

② 時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育技術を有する資質の高い教員

小学校で子どもと向き合い、しっかりと教育活動を行える小学校教員を養成する。

③ 教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員

自らの学校に通う児童を育成することはもちろん、教育活動を通して社会全体を向上させ、仏教精神を社会全体に普及させる小学校教員を育成する。